

助産学概論

責任者・コーディネーター	成育看護学講座 蛸崎 奈津子 教授		
担当講座・学科(分野)	成育看護学講座		
対象学年	3	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

助産学の基本理念を踏まえ、これまでの国内外の歴史的変遷や現代における助産師の役割を学ぶ。加えて、助産学の主な対象となる女性への支援に焦点をあて、おかれている社会的背景を考察しながら、現代における助産師の役割を理解する。具体的には、助産師が行うケアの理念、お産の歴史と文化、助産師教育の変遷、日本・世界の母子保健、助産実践の倫理、特別に支援を要する健康問題（不妊、ドメスティックバイオレンス等）および家族計画について学修する。

・教育成果（アウトカム）

助産師が行う助産実践に関する基本概念を学ぶことにより、現代における社会的課題を理解しながら助産師の役割を考察することができる。さらに女性の人権や実践場面で遭遇する主な倫理的課題についても理解することができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：2, 3, 4

・到達目標（SBO）

1. 助産師の定義と助産ケアの基本理念について説明できる。
2. 助産師がお産と助産実践に関する文化的特性を理解する意義について説明できる。
3. 助産実践において起こりうる倫理的な課題に対して、自分なりの意見を述べるができる。

・ 授業日程

(矢) マルチ 4-A 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
5/16	月	5	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	助産師とは ・ 助産師の定義と特性について理解することができる
5/23	月	5	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	助産師のコアコンピテンシーとケアの理念① (グループワーク) ・ 助産師のコアコンピテンシーについて、学生間のディスカッションを通じて、説明することができる
5/30	月	5	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	助産師のコアコンピテンシーとケアの理念② (グループワーク) ・ 助産師が行うケアの基本理念について、学生間のディスカッションを通じて、説明することができる
6/13	月	5	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	助産師のコアコンピテンシーとケアの理念③ (グループワーク) ・ 助産師のコアコンピテンシーと助産師が行うケアの基本理念の関係性について、学生間のディスカッションを通じて、説明することができる
6/20	月	5	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	妊娠・出産にまつわる習俗 ・ 妊娠・出産にまつわる習俗と助産師の役割について、学生間のディスカッションを通じて、説明することができる
6/27	月	5	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	助産実践の倫理① (グループワーク) ・ 助産実践で起こりうる倫理的課題について理解できる

7/4	月	5	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	助産実践の倫理②（グループワーク） ・助産実践で起こりうる倫理的課題への対応について、学生間のディスカッションを通じて、理解することができる
7/8	金	5	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	助産実践の倫理③（グループワーク） ・助産実践で起こりうる倫理的課題への対応について、模擬実践を通じて、理解することができる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	助産学講座 第1巻 基礎助産学〔1〕 助産学概論	我部山キヨ子 他編集	医学書院	2022

・成績評価方法

グループワークへの取組状況 70%、課題 30%にて評価する。なお、グループワークへの取組状況はグループワークでの主体性、積極的態度、事前準備として課した内容の遂行状況を含む。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

主体的な学修に向け、シラバスに記載されている授業内容および到達目標を確認し、予習した上で講義に臨むこと。講義終了後は教科書や配付資料、ノート等にて復習を行い、次回の講義に臨むこと。各授業に対する事前学修時間は最低 30 分を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

課題等については、次の授業等で適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

助産師（別表 2）：基礎助産学

看護師（別表 3）：統合分野 看護の統合と実践

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター (VPL-FWZ60)	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ (P-100)	1	講義用資料投影